

# Akatake Times

今年は本当に厳しい夏でしたね。  
あまり聞いた事のない言葉『酷暑』が天気予報で発表され、よく耳にしました。  
でも9月に入って、少しですが風が涼しくなり、深呼吸できるようになってきたのを感じます。  
心地良い新風を呼び込みながら、48期も邁進していきましょう！

Go!



『滝の見える温泉』

阿部寛主演の映画【テルマエ・ロマエ】の撮影にも使われた、河津町にある温泉施設『天城荘』に行ってきました。  
滝が見える温泉や洞窟風呂など一風変わった体験ができる施設でした。  
水着を着て入る温泉であり、家族連れや外国人観光客の姿も見られました。  
当日は雨が降って天候には恵まれませんでした、非日常的な空間でリフレッシュができました。  
静岡は海山川に囲まれた恵まれた地域だと改めて感じました。  
皆さんも興味があれば足を運んでみて下さい。



撮影日時：2018年 8月 12日

撮影と文：生産管理部 購買課 落合さん

## 夢に向かって



### ◆変化に対応

酷暑も峠を越えて、やれやれというところですよ。本当に今年の夏は殊更暑く、大変な時を過ごしました。お疲れさまでしたと、心から感謝いたします。この異常気象は日本だけでなく世界的な現象となっています。悲惨な想定外の被害が頻発しています。年々暑くなる夏の対策として、会社は何ができるのか、今から検討していかなければと考えています。

### ◆運も味方につけて

いよいよ新しい期を迎えました。第48期です。“会社の寿命は30年”を疾うに過ぎましたが、危機感だけはいつまでも続きます。社長としては、いつまでたっても“イロハのイ”を忘れずに精進していきます。イロハは47文字で、“ん”を付ければ48文字。今期は、“運”を付けて良い48期にしたいものです。

### ◆夢に向かって

私は1976年9月、赤武エンジニアリング(株)に入社、その年は第6期で売上高は4億円でした。1986年10月 取締役営業部長に就任、1990年11月 常務取締役、そして1996年11月 代表取締役社長に就任しました。

入社して42年間、ありがたいことに大病もせずここまでやってこれることができました。社長就任時に「社長としての夢を聞かせてください」とマスコミ関係者から問われました時に、「潰れない会社をつくりたい」と答えた記憶があります。

以来22年を経過し、経営の在り方はこれで良かったのかという自問自答の繰り返しであります。とにかく明日の飯を！と、每期、每期を敵と戦い、足元がふらつきながらも生き抜いてきた感があります。なかなか踊り場に立つということができませんでした。

2020年には第50期を迎えます。まだまだ“夢”の実現は難しいものがありますが、皆で一步一步着実に夢に向かって進んでいることは間違いありません。最近の業績を見るにつけ、そう実感しているこの頃です。

### ◆原点とは

企業で不祥事があると必ずお詫びの中に“原点に戻り、云々”のコメントがあります。また、経営計画にもしばしば使われるし、使いもします。この原点とはいったい何ぞや？を考えます。会社があって、そこに働く人々が集まっています。女性もいれば男性もいます。歳も離れています。生き立ちも違い、考え方も違います。そしてみんなが事業に参画しています。何のために、誰のために日々働いているのでしょうか。

ここで、創業107年企業の出光興産の経営原点を覗いてみます。

- ① 私たちはお互いに信頼し一致協力し、人の力の大きな可能性の追求を事業で実践することで世の中に役立ちたい。
- ② 常に高い理想と志を持ち、仕事を通じてお互いに切磋琢磨することで一人ひとりが世の中で尊重される人間として成長していきたい。
- ③ お客様との約束を大切に、何よりも実行を重んじることで信頼にこたえていきたい。

以上の3つが、創業者である出光三佐氏が残したメッセージだそうです。

「ひとりひとりが経営者」、「失敗は授業料」、「無我無私」などのメッセージが残されています。多くの先達は、概ね以上のことを教えてくれます。時は移れど経営の原点は不変ということではないでしょうか。

企業も人も齢を重ねてきますと、多くの経験からの考え方や情報で重たい衣を着こんでしまっています。少し、垢を落として身軽になることも必要ではないでしょうか。そして、フットワークよく環境の変化を素早く読み取り、対応していく経営が必要かと考えます。意識を変え、やり方を変え、原点を見つめつつ。

### ◆我が社のミッション

我社の使命(ミッション)は、「顧客の創造をとおして、永続的に発展し、社会に貢献する」ことによろしいかと考えます。そして、経営理念・行動指針の意味を充分理解し、自己実現を果たしていくことが肝要であると思っています。

48期、49期を計画どおり進め、50年という節目を皆さんで良い成績で祝福できるように、また更なる50年に向かう糧になればと念じています。



ご安全に！！

代表取締役社長 赤堀 肇紀